
妖と陰陽師

瑠璃色

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

妖と陰陽師

【Zコード】

Z3966Z

【作者名】

瑠璃色

【あらすじ】

注意

これは作者の妄想から出来てますのでクオリティが低いです。

突如現れた、花開院と名乗る転校生。

彼女は奴良組の妖怪にして、花開院家の陰陽師だった。
彼女の出生の秘密。

妖怪にして陰陽師な訳。

すべては数年前の京都での出来事が由来していた——

「久しぶり、氷麗、総代将！」

「式紙破軍！」

朝日は何者なのか。朝日の出生の秘密とは？

ぜひ見てください！

設定

花開院 朝日（けいかいん あさひ） 妖怪の時 茜色 朝日（あかねいろ あさひ） 13歳
妖怪と陰陽師の娘。

見た目 黒羽丸の人間で女バージョンのような感じ。和風美人だが夜になると瞳が紫色になる。妖怪の時と人間の時の外見がほぼ一緒。陰陽師として居る時は何処でも黒縁眼鏡にポニー テール。

性格 お姉さんぽい。少し抜けている所がある氷麗のサポート役。公私きちんと分けていて、公 真面目で努力家。完璧人間。私 秀元と悪のり、からかいをしている。お茶目。

力 齢六歳にして陰陽術をきわめた努力型の天才。休日は陰陽師として一人で仕事をこなしている。誰も知らなかつたが式神破軍を使える。ちなみに戸籍上では花開院 朝日となつていて真名を知っているのは奴良組、花開院のごく一部の人物のみ。

その他 奴良組には修行の合間や手が空いている時の長期休暇のとき遊びに来ていた。やることが無いので色々経験しようと世界をまわっていた。秀元と仲が良い。氷麗とも姉妹のように気が合う。奴良組の頼れる妹的存在。

付け足しがありましたら追加します。

設定（後書き）

付け足しました。

分からぬところがあつたらいつてください。

転校生（前書き）

本編です！
力ナ視点となっています。

転校生

浮世絵町。奴良リクオの通う学校。

「今日は転校生を紹介する」

ザワッ！クラスが急に騒がしくなる。男？女？どんな子？と話している。私はチラッとリクオ君を見る。リクオ君は特に興味がないようで班の男子の話に相槌をうつてくる。

「静かに！入れ」

先生は一喝した後転校生を呼ぶ。どんな子だろう？と顔、ドアを食い入るように見つめている。私もドアを見つめた。

ガララッ！入ってきたのは黒髪の和風美人な女子。

「花開院 朝日です。よろしくお願いします」

花開院？じゃあこの子も陰陽師なの？

この間家のこと我が一段落して戻ってきたゆらちゃんの方を見る。ゆらちゃんも困惑していた。たまたま一緒に名字なだけかも。私はそう結論付けて考えるのを止めた。

お皿。屋上。

私と巻さん、鳥居さん、島君、清継君はリクオ君、及川さん、ゆらちゃん、朝日さんを追っていた。なぜならお皿になると、四人で駆けつてしまつたからだ。

「どうぞ」とやへ朝日姉。うち、何も聞いてへんけど

ゆいりちゃんが朝日さんに詰め寄る。

朝日姉と呼んでいたから、やっぱり知り合いだつたみたい。でもなんでさつき困惑していたのかな？

「え、竜一から聞いてない？」

「聞いてへん……」

ゆいりちゃんは一気にまくしたてたからかゼーハー言っている。

「朝日、久しふり

リクオ君が笑う。及川さんも「コッ」と笑う。

「久しふり、氷麗、『総大将』！」

その言葉が意味する」と「気づくのは後一分後のこと。

転校生（後書き）

グダグダで申し訳ありません（ - ー - ; ）
誤字、脱字ありましたら指摘お願いします。 ^m(ーー)m^
感想も書いていただけると嬉しいです。

朝日の秘密（前書き）

今回も力ナちゃん視点です！

今回、試しに会話文と地の文を一行あけて書いてみました。
感想があつたら感想書いてくれると嬉しいです。

「じゃあ朝日も妖怪・・・なの？」

巻さんが信じられないという表情で尋ねる。私たちも妖怪についてはこの間、リクオ君と及川さんに聞いたばかりだからよく分からなければじりクオ君の事を『総大将』と呼ぶのは妖怪だけだということぐらい分かる。

「うふ。そーよ」

深刻な表情で聞いたのに、朝日さんの返事は拍子抜けするぐらいうつさり、すつきつしたものだった。リクオ君と及川さんとゆりちゃんが苦笑している。

「妖怪と陰陽師のハーフなの」

重大な秘密な筈のこともばらしている。皆睡然としているし、飄々とした宮司さんのような格好をした人がやつてきた。確かゆりちゃんの式神の・・・。

「秀元、学校終わるまで待つてよー」

「えーおひつじぐらいいいやんかー。なあゆりちゃん」

秀元さんがゆりちゃんに尋ねるが、ゆりちゃんは固まっている。どうしたんだろう?そんな驚くことかな?ゆりちゃんの式神なんだからびっくりする」とないのに。

「うひ、破軍よんでないで

えつへ秀元さんはずむりひやんの式神じゃないの？それにゆひやん
じやなかつたら誰が呼んだんだろう？清継君たちも困惑してこる。

「私が呼んだの。秀元はやらだけの式神じゃないの」

『なるほどー』

皆の声が重なる。回じことを考へたのかな？

「やうやう飯にしない？」

リクオ君の提案で「飯を食べる」とした。

そして成り行きで朝日さんも清十字怪奇探偵団に入るとなつた。

放課後

「週末、京都に行こう。の間は妖怪に会えなかつたしねー。」

『えーーー。』

すぐ嫌な予感がする。あの時みたいにならなことこいけど。。。

朝日の中の秘密（後書き）

どうでしたか？

悪い点、その他感想ありましたら感想に書いてください！

京都へ（前書き）

今回は神視点です。

京都へ

奴良組の朝は遅い。なぜなら妖怪というのはだいたい夜行型だからだ。

そんな奴良組に日の昇つたばかりの時間に身だしなみを整えている者がいた。

花開院 朝日

花開院家の陰陽師にして、奴良組の妖怪。

珍しく朝日は和服を着ていた。白い着物に藍色の袴。そして黒縁眼鏡に、ポニーテール。

なぜこんな格好をしているのかといふと、朝日は陰陽師として居るときはいつもこの格好なのだ。

朝日曰く「形から入るタイプだから」らしい。

今日は京都に行く日。一人は寝れないほど心待ちに、一人は悪夢を見るほど来て欲しくなかつた日。

集合場所。

「遅いじゃないか！ん？朝日さん、それは陰陽師の服なのかい？」

清継が朝日の服がいつもと違うことに気がついたよつて朝日に尋ねる。

「違うよ。けどいつもこの格好だから。ほら、何事も見た目からつていうでしょ？」

清継と朝日はのんきに話していたが

「二人とも早くしないと出発しちゃうよー！」

リクオの声で一人も駅に入つていった。

「この間は妖怪に会えなかつたけど今回こそは！」

清継はそんなことを言つてゐるが、カナや鳥居からしたらいい迷惑だ。

だが清継がそんなことに気がつくわけもなく、三者三様に京都へ思いを馳せていた・・・。

京都へ（後書き）

突然ですが朝日の妖怪の時の名前を変更させていただきます。
謹聖 茜から茜色 朝日（あかねいろ あさひ）になります。
理由は読み返していたら、名前が違うのはわかりずらいと思つたからです。

すみませんm(—_—)m

後、設定も付け足したので見てみてください。

花開院家（前書き）

ゆうひやん視点です。
かなり工セ京都弁です・・。
作者は東京生まれで京都行ったことないです。

花開院家

花開院家

「ただいまー」

「わらりを出迎えてくれたのは秋房兄ちゃんやった。

「わらり、お煎餅、畳に落とれないの。氣をつけで」

朝日姉に言われ、ぼーっとしてじてお煎餅をこぼしていたことに気づく。朝日姉は気だてが良くて皆に好かれている。朝日姉は昔からなんでもできて優しかった。けれどひとりと一人きりになるといたずらっこみたいな表情になつて、よくふざけてた。朝日姉は修行も手伝ってくれてたから、外国に行つちやつてさみしかつたなあ。

「わらり、またお煎餅落としてるよ~?」
「ぼーっとしちゃつて」

「わらり」としてただけや

うちがそういうと彫つていた表情を明るくさせた。朝日姉は優しいが怒るとめちゃくちゃ怖いんや。にこにこと不気味なぐらい笑顔で笑い掛けられて冷や汗を搔いたことがある。そのくらい怖い。
竜二兄に陰陽術の基本を教えたりしてたらしくんや。きっとおしれるのも上手いんだろうなあ。

そんなことを考えていると不意に後ろから声をかけられた。

「帰つてきてたのか?」

花開院家（後書き）

区切りあまりよくなかったですね。

次回朝日のもうひとつ秘密があきらかに！？

ヒントは「朝日って身長、165cmもあるって高いよね？」と「

竜二つて年下に習つかな？」です。

答えは次回のお楽しみです！

朝日は本筋は・・・（前書き）

朝日のもう一つの秘密、予想付きましたか？
本編にはあまり深く関わらない秘密なので深く考えなくていいと思
います。

今回は朝日視点です。

朝日は本当に……

「帰ってきたのか？」

声を掛けてきたのは竜一だった。竜一は私を見ると、何か思い出したような顔をして、

「学校にしてしまって休むつて言ふところだぞ。」

学校……あ、高校のか！

「ありがと。」

竜一が微かに微笑んだ。口は悪いけど顔がいいからその様子もそのままになってる。

「学校つて？」

夏実ちゃんが聞いてくる。あれ？ 言つてなかつたけ？

「高校生だよ？ 私

皆ポカーンとしている。驚くことかな？ 竜一は思い切り笑っている。

「じゃあ、なんで中学に？」

「勉強してゐるリクオのことが見たかつたから」

皆固まつてゐる。無理もないかな？ 頭がついていかないよね。竜一

はまだニヤニヤしてこる。竜一の「」とだから「」いつなる」と云ふことをいたんだが。

「朝日、高校にも遊びてね？」

リクオが黒い笑みを浮かべている。あれ？ 確か

「私、一週間他校見学でいますって言わなかつた？」

「せういえば・・・・・」

結局忘れてただけらしい。私は竜一と同じ学校に通つていて、学校への連絡は竜一に任せている。もしかしてわざとあのタイミングで言ったの？ 竜一らしいけど。

そして京都の観光スポットを案内することになった。主に神社とかだ

朝日は本当に……（後書き）

朝日の秘密は実は高校生でした！

朝日はお茶田といふこととやつぱり総代将に過保護といふことを分かつてもらうための設定だつたりします。

番外編1 パラレルワールド1（前書き）

ちょっとしたネタ切れになりまして・・・。
なので原作と妖と陰陽師のクロスをと・・・。
思いつきですが見てください。

視点は神の眼というか・・・私です？

原作キャラは

ぬらりひょんの孫 side リクオ（清継、力ナ、巻、鳥居、島、
氷麗）

? ? ? side リクオ（清継、力ナ、巻、鳥居、島、氷麗）に似
た少年（少女）
表記になっています。

番外編1 パラレルワールド1

パラレルワールドとは「観察者がいる世界から、過去のある時点で分岐して併存するとされる世界。並行世界。」だという。そんなパラレルワールドのお話。

ぬらりひょんの孫 side
ある日の清十字怪奇探偵団。

「パラレルワールドの都市伝説をしつてているかい？」

珍しく妖怪の話じゃないことを清継が話し始めた。

長いので簡単にまとめる

1・紫色の光に向かつて歩いていくとパラレルワールドに行くことができる。

2・実際に体験者も多数いて皆口を揃えてこいつのだと、「黒い

髪の化け物がいた」と・・・。

3・しかも場所が京都らしき場所で大きな屋敷だったらしい。

4・清継はその化け物が妖怪だと睨んでいたらしい。

「嘘臭くない？」

「噂でしょ？」

メンバーは皆否定している。があと数刻後に自分たちが同じ日にあうことを見た彼らはまだ知らない・・・。皆で帰ることになつたのだが校舎の裏から紫色の光が漏れていたのが見えた。

清継が行ってしまった為、皆で追いかける。リクオは光で目が見え

なくなり、目をつぶる。意識が遠のいていく。噂は本当だったのか。
・・?もしかして妖怪の・・・。そこでリクオは意識を失った。

? ? ? s . i d e

「なんで休日に家の手伝いなのかしら?」

少女はあまりそういう思つていよいよ見えるが、昔から彼女をしつ
ている者なら口を揃えて言うだろ?。「絶対不機嫌だな・・・」と。

「僕達まで巻き込まれてるし」

リクオもぼそつと言つ。リクオも休日まで妖怪に関わらなきゃいけ
ないのかとうんざりしているのだ。氷麗は楽しそうだが。
文句を言つていると辺りを紫色の光が包む。

「またか・・・」

少女のつぶやきも光に包まれた。

どしん!!

重いものが落ちたような音がする。駆けつけた先にはリクオと氷麗
とカナと清継と巻と鳥居と島にそつくりな七人の少年、少女がいた。

「いつたあ・・・」

うめき声を上げる。

「奴良君に及川君? ?」

清継ににた少年は後ろのリクオに似た少年と氷麗に似た少女と氷麗

トリクオを見比べ、私を見る。

「君は・・・誰だい？」

番外編 1 パラレルワールド 1（後書き）

すみません！

セリフと地の文の間に一行あけるのを忘れてました・・・。
以後気付けてます。

番外編 1 パラレルワールド2（前書き）

表記は前回と同じで、神の眼視点です。
短くてすみません。

番外編1 パラレルワールド2

「君は・・・誰だい？」

少女はハアとため息をつき、肩をすくめてから

「花開院 朝日。花開院家の陰陽師よ」

清継に似た少年は目を輝かせるが、ゾクッとする程まがまがしい殺氣にビクッと震える。殺氣を出しているのは少女で顔は笑っているが、なんか怖い。

「こにはパラレルワールド。噂ぐりこは聞いているでしょ？・リクオとその男の子の性格は同じよ」

リクオとリクオに似た少年を指さす。イマイチ状況が掴めないし、言っていることも分からぬ、リクオに似た少年達は屋敷の中へ連れ込まれ、リクオに似た少年と氷麗に似た少女のみ違う部屋に通された。

すると唐突に少女は尋ねた。

「君たちも妖怪でしょ？・リクオみたいに」

「…そつだけど…」

「安心して。私も妖怪と陰陽師の子だから」

少女は虚空を睨み、悲しそうに目を閉じた。そしてこれから妖怪のことなど情報交換した。最初は堅かつた空気もビロイへや。夜まで

多愛ない話は続いた。

番外編 1 パラレルワールド 3（前書き）

視点は前回と同じ、表記はリクオ（清継、力ナ、巻、鳥居、島、氷麗）君（さん）です。ややこしくてすみません。

番外編1 パラレルワールド3

次の日

「仕事なんだけど君らも来る?」

朝田の問いかけに清継君は田を輝かせ、眞を巻き込んで行くことになつた。巻さん達はブーイングしていたが

「そんなに大変な仕事じやないから大丈夫よ」

といつ朝田の言葉で渋々行くことにした。

今回の仕事の内容は朝田の通う学校の妖怪退治で、朝田の通う学校の校長は妖怪方面に理解があるため、色々講義して欲しいらしく、（妖怪の認識が甘く危険なことになりかねないため、大事になる前に対処できるよう）にという理由で）登校日まで作つて、来て欲しいとのことだった。行くのは実際に通つている朝田と竜一だった。清継君達は生徒の中に紛れていればいいとのことだった。

朝田の通う学校

「花開院家の陰陽師の花開院 朝田です」

「・・・花開院 竜一だ」

体育館に集められた生徒達は急に陰陽師だのなんだのと言われ、混乱している。

「今回まは」の学校に妖怪がいるので依頼で来ました

ざわざわと体育館が騒がしくなる。大半は笑っているが、竜一と朝日のクラスメイトは神妙な顔をしている。彼らは妖怪に遭っているからだ。しかもかなり怖い思いをしている。

ガシャンッ！ 急にパイプイスが倒れ出す。後ろを振り返ると妖怪がいた。数は四つと二十。おそらく陰陽師に気づき威嚇しているのだろう。

「あやああああーーー！」

誰かが叫ぶ。皆もパニックになり、あちこちで悲鳴が上がる。

「あれが妖怪です。私達が退治しますので、騒がず静かに」

「式神破軍！ー！」

「餓狼 嘉え」

破軍で妖怪の動きを封じ、餓狼で倒した。その素早い動きに生徒は黙り込み、清継君と秀元は拍手している。

「いやー さすが花開院の陰陽師だねー」

「相変わらずやなあ、朝日けやん」

『当たり前

発言まで息ピッタリだ。一人はそのまま妖怪について説明することにし、説明を始めた。

(あつちもこつちもたいして変わらないみたいだ)

(みたいですね。朝日さんがこつちにも居てくれたらよかったです
ね)

(アハハ・・・)

相変わらずこそそと話す一人にカナと島は疑いの視線を向けつつ、
こちらも清継のストップバーになりそうな朝日が居てくれたら・・・
と思つたのだった。

番外編1 パラレルワールド3（後書き）

次回セリフだけ、妖と陰陽師の清継が出てきて、無鉄砲ぶりを原作
リクオ達に見られます（笑）
まあ性格は同じですが・・・。

番外編 1 パラレルワールド4（前書き）

視点、表記変わりません。
正直やりづらいです・・・。
違うところがありましたら教えてください。

番外編1 パラレルワールド4

花開院家

「いやーすごかつたよ朝日君！」

「ありがとう」

学校での見事な手腕に感動したらし
い清継君がずっと褒めている。
朝日もだんだんうつとおしくなり、
適当な返事になつてゐる。リク

携帯が鳴る。

朝日新聞の携帯たつたらじぐ
朝日新聞のすうきりしたテサインの携帯
を取り出す。

「もしもし？・・・平氣だけど？」妖怪ツアーハンツー！」

リクオ君達にも聞こえるような大声で清継が言う。そしてリクオ君達は思った。

(他の世界でも同じなんだなー)

と。朝日も呆れ顔で分かつたとだけ言い、切つてしまつた。
それから多愛ない話をしていたが突然、リクオ君達の体が紫色に光
る。

「タイムリミットみたいね。自分達の世界に帰る時間よ」

「向こうのコクオ様もがんばって下さい！」

氷麗が一コリと笑いかけるとリクオ君も頷き、それが合図のよつて
光が強くなる。

「さよなら」

その言葉の後、氣を失ってしまった。

番外編1 パラレルワールド4（後書き）

どうして引きずるんでしょう？

なぜかやるやると途中で打てなくなってしまって元祖せりふ
ませんでした・・・。

感想ください！

なんか心配になつてきて・・・。

リクエストでもなんでもオッケーです

番外編 1 パラレルワールド5（前書き）

視点はリクオ、表記はいつも通りです！

完結・・。

番外編が一番長いってどうなのでしょうね？話数が。

番外編1 パラレルワールド5

ぬらじひょんの孫 side

「ううん・・・」

僕は意識が戻ったようで、辺りを見渡す。
元居た場所に戻っているようで、時計を見る限り時間も経っていない。

「あっちの僕も頑張ってね」

誰にも聞こえない程小さな声で僕はつぶやき、あの不思議体験も今思えば楽しかつたなー等と思いながら氷麗達を起こした。

さて、僕もがんばらないとね！

あれ？ そういえば黒い髪の化け物って誰のことだったんだろう？
朝日さんも黒髪だったよね・・・。朝日さんのこと？ まさか・・・。
妖怪でも見たのかなー？

同時刻、??? sideもとい、妖と陰陽師 side

「さて、あっちのリクオ達も帰ったし、のんびりしよう」と――

ヘクショソッ！ 思い切りくしゃみをする。朝日は首を傾げ

「風邪でもひいたのかな・・・？」

トリクオが噂していたことなど露しらず（しかも当たっている）そんな風に解釈していた。

番外編 1 パラレルワールド5（後書き）

感想、指摘、お待ちしています！

最後のシーンの謎

朝日「最後のあれなんだつたの？」

瑠璃色「そのまんまの意味だよ？」

朝日「そういうんじゃないなくて・・・。」

瑠璃色「詳しくはまた別の機会に説明します！」

朝日「はぐらかした？まあいつか。次回も見てくださいね！」

ちなみに、京都（前書き）

番外編で妖怪出せたので京都編は終わりです！

朝日「妖怪考えるのがめんどくさいだけでしょ？」

作者「（ざきつー）な、なんのことかな～？アハハハ……」

朝日「図星だつた……。という訳でダメ作者のためにキャラ募集します！人間、妖怪、陰陽師どれでも構いません。既に使っているキャラ、（いないだらつけど）このために作ってくれたキャラ、どちらでもOKです。」

作者「名前、性格、口調、能力が書いてあれば即採用！人間の場合はどうのような役回りか記入お願ひします。できる限りこういうショーチューンションが良いと言うのも書いてくれればやります。（あくまでもできる限りですが）」

朝日「気長に一ヶ月ほど待ちますので気が向いたらで構いません」

朝日・作者「お待ちしていますー！」

さよなら、京の都

朝日視点

「朝日つてさ、天才だから陰陽師になつたの？」

何氣ない巻ちゃんの質問は私の本質が現れそうな質問だつた。
私は、天才でも特別な力を持つてる訳でも、ない。

「陰陽師になつたのに理由はない、かな？それに私は天才じゃない
よ。死にもの狂いで勉強しただけだよ？」

「えつ？」

私は、天才でも特別な力を持つてる訳でも、ない。
ただ単に死にもの狂いで勉強しただけ。
でもきっと私が勉強していなくともなぜか使えた破軍のせいで陰陽
師になつていたと思う。私は多分、あの、一歳の時の出来事が起きた
ときから、陰陽師になることは決まつっていたのだろう。
まるで偶然にしては良く出来すぎた、運命のように。偶然ではなく、
必然だったのかもしね。

「でも朝日さんはすごいね。力がなくても努力する、なんて皆がみ
んな出来る」とじやないし

カナちゃんは純粋なんだなーとのんきに思う。私はそんな風に物事
を見れないから。私にとつての憧れなのかもしね。

「そう・・かな？ありがとう」

笑った顔をしているが、私は笑つてなかつた。ぐるぐるとあの田の出来事がフラッシュバックする。そう・・・あれはもう十数年も前のこと。

神の目視点

花開院家

「おい、聞いたか？妖怪、大量に出たらしいな」

「ああ。実力者はほぼ全員駆り出されたみたいだ」

男はそして一番の得だねを蚊の鳴くよつた小さな声で告げた。

「あの朝日つていうまだ一歳の子供も一緒に行つたらしい」

妖怪、大量発生現場

陰陽師達は既にボロボロだつた。あちこちから血が出ていて痛々しい。立つてているのは小さな子供一人。

妖怪は一斉に子供に襲いかかる。子供はまだ喋り初めてまもない筈なのに舌足らずな言葉でなにか唱えた。すると骸骨に一人の男が現れる。皆驚愕する。どこの子だか分からぬ子が破軍を・・・？

「こなんぢつちやい子が破軍を発動せるとほなあ。面白わかつや」

整つた顔立ちの先人はそう呟き消えていった。

それからだ。陰陽師の勉強を始めたのは。正直なところ理由は自分でも分からぬ。でも間違つては無かつたと思つ。正しかつたかは分からぬけれど。

でも

「朝日君～帰る時間だよ～」

「朝日何一人でボーッとしてたの？」

「どうかしたの？」

「置いてがれちやつよ～」

よかつたんじやないかな？こんな時間を過いじせてくるのだから。

駅のホーム

「私はもう、中学には行けないけど遊びに行くから～」

さすがにずっと休む訳にもいかないし、見学の為の一週間は過ぎたから、いつまでもいるわけにもいかない。

「待つてるよ～」

「連絡してよ～」

妹と弟が出来たみたいだった。あ、訂正。やらがいました。まあ君から見たら出来損ないの姉だったと思つけど。またお土産持つて

奴良組にも行こうかな？

しかし私の浮世絵町訪問は驚く程早く実現するのだった・・・。

さよなら、京の都（後書き）

少し朝日が過去が露になりました。

次、どうしましょー？

感想、待ってまーす！

過去・奴良組（前書き）

疲れたら。

この小説完結させられるでしょうか？

感想あつたら遠慮せずになんでも！

明後日から冬休み！

もう一つぐらい連載書こうかな？

神の視点です。

過去・奴良組

過去編

ある日のことだった。

清十字怪奇探偵団がその日記を見つけたのは。

「リクオ君これ何かな?」

カナが渡したのは革の日記帳だった。

一ページ目には朝霧と書かれており、手紙が挟まれていた。カサツ 音を立てて手紙が畳に落ちた。手紙が開く。

朝日へ

と書かれていた。リクオは嫌な予感がした為、急いで開く。さあタイムトラベルの始まり。

数十年前 奴良組

「若菜ちゃん!」

若菜のもとに黒髪で藍色の着物を着た女性が駆け寄る。

「なあに? 朝霧さん」

「京に行くけれど家のこと大丈夫?」

「大丈夫です! 朝霧さんこそ体の具合は大丈夫ですか?」

朝霧は一瞬きょとんとした後、クスクスッと小さく笑う。これじゃあどっちが心配してたか分からなくなっちゃうと思いつつ、まだきょとんとしている若菜に

「困つたら鯉伴か首無かけじょひひに声かけなさい」

とだけ言い、京の都へ旅だつた。

京都

京都では最近妖怪が姿を現すことが多くなり、陰陽師も困っていた。
一人の陰陽師も依頼の帰りだつた。
上機嫌で歌つている陰陽師の名は花開院 千尋。

過去・奴良組（後書き）

新キャラ千尋君に朝霧さんです！

朝日達はしばらくでこないと思います。
過去が終わったらしばらくお休みします。
キャラ募集が終わるぐらいまで。
別の連載を始める予定です。

詳しく方針を決めたら活動報告にて報告します。

過去・京都（前書き）

表現が難しい・・・。

客観的に見るとどうなっているか心配です・・・。
分からぬところがあつたら聞いてください。

神の視点です。

京都

千尋は歩いてこると、氷漬けの妖怪に出会つ。

「ん？」

少し思案顔をしたが、ま、いつか。と割り切り、歩いていった。だが

「なんでこんなに妖怪だらけなの！？」

と怒りながら次々に妖怪を氷漬けにしている女に出会つた。さつきの氷漬けの妖怪は二つの仕業だったのかと千尋がおつとつと考えていると

「陰陽師！手伝いなさいよ！」

おかしなことを聞いた子だと思つた。陽と陰の陰陽師と妖怪は交わつてはいけないものだからだ。千尋自身は大して氣にもしていなかつたが。

「へいへい。あー、うちで冷氣飛ばさないでくれへんかな？」

「ん？」

二人は戦闘に入る。とても初めてあって、戦つたとは思えないような息の良さに敵も、自分達も驚いていた。よく聞くと彼女は朝霧と

「秀元がいつも話している奴良組の妖怪だつた。秀元が話した
ことないので隠れ家に泊まつていつてもらつた。

「千尋はなんで陰陽師になつたの？特に妖怪を警戒している様子はないし、私をここに泊めたりしているし」

「千尋はしばらく黙つていたが朝霧が覗き込んできたので苦笑
し、

「周りの言いつけになつた。破軍が使えたからな」

少し哀しげな表情をしたあと、にこっと笑い、嫌つてわけでもない
けどなと付け足す。でも好きな訳ではない。そういう意味もある言
葉を使つたのだから好きではないのだろう。

「やつか。でもすゞよ。言いつけでも色々な物を守るのは難しい
ことよ。だから・・・すゞよ」

千尋は朝霧の言葉にきよとしたあと、そういう風に考えられる
のもすゞよことやと褒めた。一人とも柄じゃないと笑い出した。一
人は小さな恋が芽生えていることにざぶんく気づいてしまつた。

一日後

今日は雨。だけど妖怪が休んでくれるわけがなく、いつも通り千尋
は妖怪退治にいっていた。ただ、一つ違つことと言えば、朝霧がい
る」とぐらうだつた。

「うわあ池とか最悪やわあ

「しょうがないでしょ？仕事なんだから」

うわあ服とか汚れそつと思いつつもしょうがなく、妖怪を倒していったのだが最後の妖怪を倒した反動で千尋は思いつきりこけて水溜りにジヤボン…と落ちる。その拍子に頭を強く打った。

（ヤバ……でもなんとかあるみになるか・・・）

千尋はそつ思い意識をフローデアウトした。陰陽師といえど所詮は人間なのでどうもなかつた。それを見ていた朝霧は

「何やつてんだか」

と悪態をつきつつもおんぶし、隠れ家まで運んだ。そして朝霧は額に手を当てるが思わず手を離す。

「何yre・・・す」い熱じやない

彼女は雪女。熱いのは苦手だがだめでは無かつたのでなんとか世話をが出来たがかなり危なかつた。しょうがない、と割り切つて口移しこれまで上げた。最初はなんとも思わなかつたが、徐々にあれ？と思い始める。そして

「私、好きなんだ。千尋のこと。じゃなかつたらいいまじないよね。普通」

と呴き、私も大概子供ねと思いつつも納得した。

しかたなく、そのまま布団にいれたが、千尋が朝霧の裾を無意識に掴み、離さなかつたので

「まったく、子供みたいね」

といいつつも微笑み、一緒に寝てあげた朝霧がいた……。

一週間後

「じゃあな、朝霧。また会おうな」

「もちろん。じゃあね」

さようなら。大好きな人。でもまた会えると信じる。そう一人は願い、別れた。

しかしそれから一人は会うことなく死んでいつてしまつた。最後に思つたことは一人一緒。

「約束を果たせられなくてごめんなさい（すまんかったなあ）」

永遠の片思いは報われることなく終焉した。

過去・花開院家（前書き）

過去編も大詰めです！
しばらく不定期更新になってしまいますがよろしくお願いします。
神視点です。

過去・花開院家

朝霧が亡くなる前日。

花開院家。

一人の女が門の前に赤子が置かれているのに気づく。毛布にくるまれていて、茜色 朝日と書かれた紙が一緒に置いてあつた。女は赤子を放つておけず、保護したのだ。

皆、人間だと思っていて受け入れたがここは陰陽師の総本山なんだぞ！赤子など・・・と言う者もいたが女は必死に守った。自らの弟の面影がある赤子を・・・。

現在

「朝日は知っていたの・・・？」

「知つてましたよ。昔、涙ぐみながら話してくれました」

氷麗は苦悶の表情を浮かべる。やつぱり力ナちゃん達に見せなくてよかつたと思い、このことは心に封印して置こうとリクオは思い、力ナ達にはなにも言わなかつた。

花開院家

「もうすぐあなたが来て16年ね」

たれそがれるている朝日に声が掛かる。突然のこと驚きゆつくり振り返る。

「真昼姉！」

真昼はクスリと笑った後

「あんなに小さかったのにね」

からかいつのような口調で朝日に話しかける。案の定朝日はブクウと頬を膨らませ、

「むかしの話だもん」

と拗ねてしまつ。それを笑っている真昼は本当の姉のようだった・。

過去・花開院家（後書き）

オリキヤラ、そつぱら 鳴原 まひる 真昼さんです！
真昼さんはどこかへ嫁いでの設定です。
真昼さんの弟というのはもちろん、千尋です！

君は空に向かを願つ

「本日は全国的に晴れ、雲一つない——」

つけっぱなしのラジオから流れる天気予報。それはやがてザァーと
言う雑音にかき消され、何も聞こえなくなった。

力チ 朝日はうつとおしげにラジオを切る。

晴れで暑く雲一つない天気は昔から好きじゃない。だからといって
雨が好きな訳でもないのだが。

忙しそうに廊下を駆ける親戚に見向きもせず屋根にのぼる。

ひやつ 微かに冷たい空気が頬を撫でる。気持ち良いのか目を閉じ、
すうっと新鮮な息を取り込む。

パタパタと走る親戚を一瞬視界に捉えるがすぐにフードアウトする。

今夜は星が綺麗にみえそうだ。

どうでもいいことを思い、朝日は空を見る。とたんに瞳は儚げに搖
れ、悲しみに打ちひしがれる。

やっぱり晴れで暑く雲一つない天気は嫌いだ。
まるであるの日のようで。

朝日は今も空を見上げている。

明日は雨になることを願つて。

君は空に向かを願つ（後書き）

絶賛スランプ中のるりです。

ただいまオリキャラ、リクエスト募集中！

クロスオーバーはジャンプ作品のみオッケー！

お待ちしています。

オリキャラについてはさよなら、京の都を見てくださいませ。
感想もお待ちしております！

和は空に向を願ひ 星空バージョン（前書き）

前話の星空で夜リクオバージョンと氷麗バージョンです。空を星空に変えればよかつたのですがどうしても統一感が欲しく、わかりずらじ題名になってしましました・・・。
すみません。

君は空に向かを願つ 星空バージョン

リクオ side

奴良組

時刻は空が闇に包まれ、星が瞬く夜。

そこに白く闇に染まらない髪が現れる。

その髪の持ち主はヒヨイといともたやすく屋根に上る。

キラキラツ 空は星が瞬く。

そして月を見上げ、その月と同じ色の瞳を持つ側近のことを思い浮かべる。

そして血だらけになつている側近も脳裏に浮かぶ。

ああ俺はいつもアイツに支えられていたのに何もしてやれなかつた。でも

”もうアイツをもう傷つけねえ”

流れる星に誓う。願いではなく、絶対にやってやる。

そんな青年の意志を読みとつたかのように流れる星はより一層綺麗に、強く輝いた。

氷麗 side

風呂を上がつたばかりでほんの少し火照った体を冷やさうと縁側に
でる。すると星がとても綺麗に見える。

月色の瞳を大きく見開き、目に焼き付ける。
そして流れ星が視界を横切る。

そして願うのだ。主の無事を。

彼女の視線はやがて月の映る池へと移動する。

鏡花水月

彼女の主の力であり畏れであり性格。
のらりくらりとやり過ごす。けれどその瞳にはいつも強い光と覚
悟が溢れている。そんな主が大好きなのだ。
だから星に願い、自らも強くなると望んだ——

守りたいと思う者達のゆく末は・・?

君は空に向かを願つ 星空バージョン（後書き）

またポエム的な何か（笑）
でもこりこりのも上手いかどうかは別にして好きです。
書きやすいし。

けれど出来については田舎を願つてくださいませ。
感想お待ちしてこます。

a happy new year!

謹賀新年明けましておめでとうございます。
今年も妖と陰陽師をよろしくおねがいします！

本日は朝日、リクオ、るりでお送りします！

「明けましておめでとうございますーー！」

それにもしても朝日とリクオ着物似合ひ。桜と氷ってリクオと氷麗のイメージかな？

「やうだよ。早く行けりやー！」

からんからん鈴を鳴らし、ぱんぱん手を叩く。そして祈る。

平和であつますように。妖と陰陽師があつまらりますように。

奴良組があつまらりますように。鳥天狗の過保護が直りますように。

宿題が無くなりますように。後、ノートパソコンがほしい。

三者三様に祈った後、おみくじを引く。一斉のせーでおみくじを開く。ひら

朝日・・・大吉

リクオ・・・大吉

るり・・・凶

「凶なんであるんだ・・・。私一回も引いたことないよ

「うそー?す、いね~るつは運ないんだよね。この間も凶だったよ(泣)

「運に負けなこぐらこ頑張ればいいんじゃないかな?」

さすがリクオ!

そうだね。明日頃には挫折しちゃうけど頑張るよ。」

「」今年も妖と陰陽師をよろこべねー。」「

a happy new year! (後書き)

今年もよろしくお願ひします！

ミニ一ク1000人突破！！（前書き）

くだらないことですが、作者にとってはテストで百点取るより嬉しいのでつい・・・。
生暖かい視線で見守つてください。

ユニーク1000人突破！！

祝、ユニーク1000人突破！！
いつも「」愛読ありがとうございます。

いまだに感想とかあまりもらっていないので良くないのかな・・・?
と心配でしたがユニーク1000人突破し、嬉しいです。（＊、
＊）

これからもよろしくお願ひ致します。

今回は本編で語る予定の無かつた朝霧さんのプロフィールと小話を
ちょこっとやりたいと思います。

朝日を応援してくれている方もいるかもしれませんが今日はお休み
です。

朝霧（雪女）

奴良組の妖怪。遠野出身。

体が弱かった為、瑠姫、乙女、若菜とお留守番していた。

家事は誰よりもうまく雪麗がいた頃は雪麗と仲が良く、一緒にいた。
どちらかと言うとおとなしい子なのだが子供っぽい子（千尋とか）
がいるとお姉さんらしい少し強引な口調と感じになる。乙女曰く「
お姉さんらしいところもあるんですよ。普段はおとなしくて分かり
ずらいかもしぬせんけど・・・」らしい。

鯉伴のことは少しやんちゃな弟みたいに思っていて鯉伴も朝霧はい
つもはおとなしいけど困っているときは助けてくれるお姉さんによ
うに思っていた。

鯉伴に人として忘れてはいけないと教えていたのは妖怪なのに
朝霧だつたらしい。

小話 鯉伴のお姉さん

チュンチュン。小鳥がさえずる音が聞こえる。日は昇つていて奴良家も朝を迎えていた。しかし皆起きていない。
ガララッ！

「鯉伴、朝よ？起きて」

朝霧がまだ寝ている鯉伴をゆさゆさと揺らす。まだ眠たそつな顔で起き上がる。

「顔洗つたら？朝ごはんは用意してあるから」

鯉伴が洗面所の方に向かつたのを見て朝霧も台所に向かう。そこには雪麗があり、盛りつけをしていた。手伝いに来ている妖怪達は睡そうだ。

「皆、まだ眠そうね。鯉伴は起こしたから鯉伴と瑠姫と総大将だけで朝ごはんにしちゃいましょ？」

「別に起こしちゃえぱいいじゃない。ま、アンタがそつ言つならうするか」

テキパキと準備を進めていき、大広間まで運ぶ。今日は塩鮭にご飯、お味噌汁とありきたりな献立だ。だがこれも以外と手間がかかつており、一人は誰よりも早く起きて用意している。大広間には既に鯉伴、瑠姫、総大将が待っており、ご飯を置く。

「じゃアタシはまだ眠いから少し寝てくるわ」

雪麗はそう言い、寝室の方に戻つていった。妖怪なので朝はきついのだろう。朝霧は遠野出身だった為、朝は比較的大丈夫だ。

「雪麗にお礼言わないとですよ？総大将。いつも眠りですしき

「やうじやなー」

「やうですね」

夫婦揃つて返事をする姿に思わず朝霧は笑つてしまつ。

「　　御馳走様でした」

声を揃えて「こちやうさまをした親子を見て微笑ましく思つていた朝霧だつたがあることに気がつく。ハンカチを出し、鯉伴の口元を拭う。

「後でもう一回鏡確認してくださいね？」

「すみません、朝霧さん」

「大丈夫ですよ。さ、お洗濯しますか！」

朝霧は立ち上がり、お風呂場へ向かう。その姿を見て総大将と瑠姫は笑う。鯉伴は言われた通り洗面所に向かつた。

「朝霧の奴、鯉伴の姉みたいじゃな

「ですね」

奴良組は今日も平和なようだ。

酒

既に日は落ち、辺りも静かになる。暗闇に溶ける黒い髪に妖しく光るバイオレットの瞳を持つ少女と暗闇に混じらない白と溶ける黒色の棚引く長髪の鋭い目付きの青年が歩いていた。

少女は名を朝田と言い、青年は名をリクオと言った。

「つたぐ、うちにこるといひて酒も飲めねー」

リクオが愚痴を漏らす。それを叱ることもなく、朝田は同意する。
「そうね。けどそこが奴良組の良ことでもあるもの。付き合つから、文句言わないの」

リクオはクスクスと笑い、朝田の頭をぽん！と叩く。

「分かつてゐる。ま、今日は朝田に付き合つてもらひにいけどな

二人は良太猫のお店へ入る。今日は奴良組は宴会中の為、そんなに人がいない。

リクオは酒を注文し、お座敷の縁側に座る。

「月が綺麗ね」

「だな。注いでくれるか？」

リクオが差し出した盃に酒を注ぐ。二人は静かに月見をしながら酒を飲んでいる。聞こえるのは水音だけ。

軽く火照った顔が夜の寒さで冷え、心地よい。

「また来ましょうね」

「ああ」

酒の所為か、朝日はリクオにもたれ掛かり寝てしまつ。フツとリクオが笑う。

「付き合ってくれてありがとうな」

とある月の綺麗な晩の話

酒（後書き）

作者は酒まざいと思います。

未成年だからなんともいえないけどノンアルコールビールまづかつた！

ま、大人曰く子供には分からいらしゃいですけど・・・。
お酒の話ですが0・1%のアルコールと99・9%の妄想でできております

戦場ヶ原さん風に言つてみた！
実際のところどうなんでしょうね？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3966z/>

妖と陰陽師

2012年1月5日23時47分発行